

4月 19 日(日曜日)「ダビデ(10) 信仰的整え」

【新改訳 2017】

II サムエル記6・1-15

「彼らは、神の箱を、新しい車に載せて、丘の上にあるアビナダブの家から運び出した。……ダビデとイスラエルの全家は歌を歌い、立琴、琴、タンバリン……を鳴らして、主の前で、力の限り喜び踊った。」(3-5節)

一般的な言い方をすれば、このあたりから、ダビデの信仰がふたたびその本領を発揮し始めます。実は、サウロの追撃から逃げ回っていた間は、自ら主に伺って積極的に行動したことはあまり見られません。敵ペリシテ人の地に難を逃れた時はかなり落ち込んでさえいました。

しかし今、彼の信仰が働き出していたのです。自ら頻繁に主に伺い、その上で行動しました。個人的にだけでなく、イスラエルの民の信仰をも整え直しました。それは、「神の箱」をエルサレムに運び上ろうとし、また、皆が箱を見て大喜びしたことでよくわかります。「神の箱」は、十戒の石の板が納められており、神の臨在の象徴でした。神への信仰が力なのです。

～祈り～

主よ。私たちは、あなたのみことばの全体(聖書)を与えられているこ

とを感謝します。どうか、もっとこのことを喜び、あなたの臨在に触れる  
使い方ができるようにしてください。